

ISSN 1348-9003

東アジア言語研究

第 10 号

論文

(大阪)府立 (中之島) 圖書館 所藏 18 世紀
日本 資料 韓國語

佐野 三枝子 1

西夏文『新集金碎掌置文』の研究 3

小高 裕次 19

保安语词汇探源

马 沛霆 27

投稿規定 31

東アジア言語学会

2007

Studies in East Asian Languages

No. 10

Articles

**The Korean Language Written in Three Japanese Materials in 18th century
in Nakanoshima Library**

SANO Mieko 1

A Study of "Gold Nuggets in the Palm" 3

KOTAKA Yuji 19

The Origin of the Baoan Vocabularies

MA Peiting 27

Style Sheets 31

Society for the Study of East Asian Languages

2007

西夏文『新集金砕掌置文』の研究 3

小高裕次
(文藻外語學院)

A Study of "Gold Nuggets in the Palm" 3

KOTAKA, Yuji
(Wenzao Ursuline College of Languages)

キーワード：西夏語, 『新集金砕掌置文』

0. はじめに

0.1. 本稿の目的

筆者は小高(2005, 2006)において、西夏人によって作られた西夏文字の識字教育用テキストである『新集金砕掌置文(以下、『金砕』と略)』の一部について紹介し、その日本語訳を試みた。本稿では、引き続き『金砕』本文第26連から第41連までの紹介と日本語訳を行う。底本もこれまでと同様俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所・中國社會科學院民族研究所・上海古籍出版社(1999)所収の『金砕』No. 741である。

1. 本論

以下に『金砕』本文第26連から第41連までの全文および第39連から第41連までの日本語訳を掲げる。

1.1. 第26連—第38連

第26連から第38連までは、西夏人の姓が列挙されている。それぞれの句は、基本的に二字姓—族姓専用文字—二字姓という構成となっている。西夏人の姓にはいわゆる「複姓」が多いため、一つの句の第三の文字は単独では意味をなさないものが多い。これは、聂・史(1995)が推定するように、五字一句というスタイル上の制限から、複姓の一字のみを取ったものと思われる。

なお、聂・史(1995)では全ての西夏人姓に漢字を当てているが、ここで使用されている文字は、大半が族姓を書き表すために作られた専用の文字であるため、本稿では、あえて原文と推定音価を載せるにとどめることにする。

26) ①𐵓𐵔 ②𐵑 ③𐵒𐵓

1cenq 2'on 2nyeq2 2me: 2puq

④𐵔𐵕 ⑤𐵖 ⑥𐵗𐵘

2yeu: 1nenq 1bye 1lhe' 2kye¹⁾

- ①𐵓𐵔 1cenq 2'on は、西夏文『雑字』²⁾の第 11 葉右 5 行目に見られる。
 ②𐵑 2nyeq2 は、同書の第 11 葉右 5 行目𐵑𐵒 2nyeq2 2zenq に使用されている。
 ③𐵒𐵓 2me: 2puq は、同書の第 12 葉左 3 行目に見られる。
 ④𐵔𐵕 2yeu: 1nenq は、同書の第 12 葉左 5 行目に見られる。また、『涼州感応塔碑文』³⁾では、「葍乚」の字があてられている。
 ⑤𐵖 1bye は、同書の第 11 葉右 1 行目𐵖𐵗 1bye 2'won に使用されている。
 ⑥𐵗𐵘 1lhe' 2kye は、同書の第 11 葉右 4 行目に見られる。また、『涼州感応塔碑文』では、「令介」の字があてられている。

27) ①𐵙𐵚 ②𐵛𐵜𐵝

1cl: 1zi:q 2hin 1lan 1'yi2

③𐵞𐵟 ④𐵠𐵡𐵢

1gl: 2di: 1ma: 2zyIr 1bye'

- ①𐵙𐵚 1cl: 1zi:q は、西夏文『雑字』の第 11 葉右 6 行目に見られる。
 ②同書「人名」の項で、𐵛𐵜𐵝 2hin 1lan の名が見える（第 13 葉左 4 行）。また、同じ項目中に、〇〇𐵝 1'yi2 という人名がいくつか見られる。これらのことから考えて、おそらく𐵛𐵜𐵝 2hin 1lan 1'yi2 も人名であろうと思われる。また、𐵛𐵜 2hin 1lan は賀蘭山の「賀蘭」にあたる西夏語である。
 ③𐵞𐵟 1gl: 2di: は、同書の第 11 葉右 8 行目に見られる。
 ④𐵠𐵡𐵢 1ma: 2zyIr は「河水」と訳せる。また、〇〇𐵢 1bye' という人名が同書の「人名」の項で見られることから、𐵠𐵡𐵢 1ma: 2zyIr 1bye' もまた人名であると思われる。

28) ①𐵣𐵤 ②𐵥 ③𐵦𐵧

2ryur 1nyuq 1lo:n 2tsha: 1lya'

④𐵨𐵩 ⑤𐵪 ⑥𐵫𐵬

2si: 2dzi:' 2ya: 2yyur 1ton

- ①𐵣𐵤 2ryur 1nyuq は、西夏文『雑字』の第 12 葉右 5 行目に見られる。
 ②𐵥 1lo:n は漢人姓「梁」や地名「涼州」の「涼」の表記に用いられる。
 ③𐵦𐵧 2tsha: は同書「夏族姓」の項で𐵦𐵧 2tsha: 2gu: をはじめとするいくつかの姓で用いられている。しかし、𐵧 1lya' を用いた人名は同項では見つけられなかった。
 ④𐵨𐵩 2si: 2dzi:' は、同書の第 11 葉右 3 行目に見られる。

1) 西夏語の推定音は、西田(1997)pp49-58 に基づく。また、表記は基本的に荒川(2002)の簡易表記に従っている。

2) ここで言う『雑字』とは、西夏時代に編まれた分類語彙集の一種である。コズロフ探検隊将来カラホト(黒水城)文献には、西夏文『雑字』と漢文『雑字』の二種類がある。本稿では、西夏文『雑字』については李・中嶋(1997)を、漢文『雑字』については史(1988)を参照した。

3) テキストは西田(1966)に依った。

- ⑤𦉑 2ya: は、同書の第 11 葉左 4 行目 𦉑𦉑 2ya: 2wi: で使用されている。
 ⑥𦉑 2yyur は、同書の第 11 葉左 2 行目 𦉑𦉑 2yyur 2gu: などの姓で用いられている。また、
 𦉑 1ton は同書第 11 葉右 7 行目 𦉑𦉑 1ton 1zi:q で使用されている。

29) ①𦉑𦉑 ②𦉑 ③𦉑𦉑

1'e: 2gu:' 1lhon 2wi: 1son

④𦉑𦉑 ⑤𦉑 ⑥𦉑𦉑

2khwi 1phi 2ki:r 2ma 2sho:

- ①𦉑𦉑 1'e: 2gu:' は、西夏文『雑字』の第 11 葉右 7 行目に見られる。
 ②𦉑 1lhon は、同書の第 11 葉右 1 行目 𦉑𦉑 1lhon 1ngl' で使用されている。
 ③𦉑𦉑 2wi: 1son は、同書の第 12 葉右 5 行目に見られる。
 ④𦉑𦉑 2khwi 1phi は、同書の第 13 葉左 1 行目に見られる。また 聂・史(1995)は、同書と
 同時に黒水城で発見された漢文版『雑字』に見られる西夏人姓「骨婢」がこれにあたり
 と述べている。
 ⑤𦉑 2ki:r は、同書の第 12 葉右 4 行目 𦉑𦉑 2ki:r 1ngl' で使用されている。
 ⑥𦉑𦉑 2ma 2sho: は、同書の第 12 葉右 5 行目に見られる。

30) ①𦉑𦉑 ②𦉑 ③𦉑𦉑

1de:' 2lyen 2'won 2wi: 1mu

④𦉑𦉑 ⑤𦉑 ⑥𦉑𦉑

2la: 1nu' 2shyI 1lhI: 1rar

- ①𦉑𦉑 1de:' 2lyen は、西夏文『雑字』の第 11 葉左 4 行目に見られる。
 ②𦉑 2'won は 26) ⑤で述べたように、同書の第 11 葉右 1 行目 𦉑𦉑 1bye 2'won に使用され
 ている。
 ③𦉑𦉑 2wi: 1mu は、同書の第 69 行目に見られる。また、西夏語で日本は 𦉑𦉑 2wi: ?lhc:
 「倭国」と表記される⁴⁾。
 ④𦉑𦉑 2la: 1nu' は、同書の第 11 葉左 7 行目に見られる。また 聂・史(1995)は、漢文版『雑
 字』に見られる西夏人姓「連奴」がこれにあたりと述べている。
 ⑤𦉑 1lhI: は、同書の第 13 葉右 6 行目 𦉑𦉑 1lhI: 1ha で使用されている。
 ⑥𦉑𦉑 1lhI: 1rar は、同書の第 13 葉右 1 行目に見られる。また 聂・史(1995)は、漢文版『雑
 字』に見られる西夏人姓「勒囉」がこれにあたりと述べている。

31) ①𦉑𦉑 ②𦉑 ③𦉑𦉑

1ji 2khyeu 1shyar 1ldon 2tsi:

④𦉑𦉑 ⑤𦉑 ⑥𦉑𦉑

1phya 2li: 2be:' 2sI: 1pi:

- ①𦉑𦉑 1ji 2khyeu の二文字は、恐らく西夏人の姓だと思われるが、西夏文『雑字』「夏族
 姓」の項でこれらの文字を使った姓は見つけれなかった。
 ②𦉑 1shyar は、同書の第 13 葉右 5 行目 𦉑𦉑 1shyar 1ywyin で使用されている。
 ③𦉑𦉑 1ldon 2tsi: は、同書の第 12 葉左 1 行目に見られる。

4) 西夏語訳『類林』第四卷(史・黄・聶 (1993)所収)。

- ④𦉑𦉑 1phyɑ 2li: は、同書の第 12 葉左 4 行目に見られる。また聂・史(1995)は、漢文版『雑字』に見られる西夏人姓「芭里」がこれにあたと述べている。
- ⑤𦉑 2be:' は、同書の第 13 葉右 7 行目 𦉑𦉑 2be:' 2zi などいくつかの姓で使用されている。
- ⑥𦉑𦉑 2sI: 1pi: は、同書の第 12 葉左 1 行目に見られる。

32) ①𦉑𦉑②𦉑③𦉑𦉑 ④𦉑𦉑⑤𦉑⑥𦉑𦉑

1byu 1'yu 2de 1bI 2ne:

2pa: 2lon ? 1kwi:q' 2dzi:q

- ①𦉑𦉑 1byu 1'yu は、西夏文『雑字』の第 12 葉右 7 行目に見られる。
- ②𦉑 2de については、同書「夏族姓」の項でこの字を使用した姓は見つけられなかった。
- ③𦉑𦉑 1bI 2ne: は、同書の第 12 葉右 5 行目に見られる。
- ④𦉑𦉑 2pa: 2lon は、同書の第 12 葉右 1 行目に見られる。
- ⑤𦉑 ? については、同書「夏族姓」の項でこの字を使用した姓は見つけられなかった。
- ⑥𦉑𦉑 1kwi:q' 2dzi:q は、同書の第 11 葉左 6 行目に見られる。

33) ①𦉑𦉑②𦉑③𦉑𦉑 ④𦉑𦉑⑤𦉑⑥𦉑𦉑

1syo 2ror 1shI:r lngI' 1'a

2yI: 1mur 1chyo 2zIr 1tshe:

- ①𦉑𦉑 1syo 2ror の二字は、恐らく西夏人姓であると思われるが、西夏文『雑字』「夏族姓」の項では見つけられなかった。
- ②𦉑 1shI:r は、第 13 葉 6 行目 𦉑𦉑 1shI:r 1hIr で使用されている。
- ③𦉑𦉑 lngI' 1'a は、西夏文『雑字』の第 11 葉右 5 行目に見られる。
- ④𦉑𦉑 2yI: 1mur は、同書の第 12 葉右 8 行目に見られる。
- ⑤𦉑 1chyo については、同書「夏族姓」の項でこの字を使用した姓は見つけられなかった。
- ⑥𦉑𦉑 2zIr 1tshe: は、同書の第 11 葉左 5 行目に見られる。

34) ①𦉑𦉑②𦉑③𦉑𦉑 ④𦉑𦉑⑤𦉑⑥𦉑𦉑

1'yeq'2 2shi: 1on 1sho" 1tshon

1cho" 2ngyu 1le 2ngo:n 2ri:r

- ①𦉑𦉑 1'yeq'2 2shi: は、同書の第 12 葉左 2 行目に見られる。また聂・史(1995)は、漢文版『雑字』に見られる西夏人姓「拽税」がこれにあたと述べている。
- ②𦉑 1on は、同書の第 12 葉右 3 行目 163 𦉑𦉑 1on 2ngwi で使用されている。
- ③𦉑𦉑 1sho" 1tshon は、同書の第 12 葉右 7 行目に見られる。また、𦉑 1sho" は西夏語訳『類林』⁵⁾において国名「蜀」の音訳に使用されている。
- ④𦉑𦉑 1cho" 2ngyu は、同書の第 12 葉右 6 行目に見られる。
- ⑤𦉑 1le は、第 12 葉左 5 行目 𦉑𦉑 1le 2li: で使用されている。
- ⑥𦉑𦉑 2ngo:n 2ri:r は、同書の第 13 葉右 8 行目に見られる。また聂・史(1995)は、漢文版

5) 史・黄・聶(1993)を参照。

『雑字』に見られる西夏人姓「臥利」がこれにあたと述べている⁶⁾。

35) ①𐰇𐰏 ②𐰇𐰏 ③𐰇𐰏

2lu 1tsan 1yo" 2mi 1khe:

④𐰇𐰏 ⑤𐰇𐰏 ⑥𐰇𐰏

2zwi:q 1se:2 2fe: 2wyu 2ni:q

- ①𐰇 2lu は、同書の第 12 葉左 3 行目 𐰇𐰏 2lu 2shi: などいくつかの姓で使用されている。一方、𐰇 1tsan については、同書「夏族姓」の項でこの字を使用した姓は見つけられなかった。
- ②𐰇 1yo" は、第 13 葉右 5 行目 𐰇𐰏 1'l:r2 1yo" で使用されている。
- ③𐰇 2mi 1khe: は、同書の第 12 葉左 2 行目に見られる。
- ④𐰇𐰏 2zwi:q 1se:2 は、同書の第 11 葉右 7 行目に見られる。
- ⑤𐰇 2fe: については、同書「夏族姓」の項でこの字を使用した姓は見つけられなかった。
- ⑥𐰇𐰏 2wyu 2ni:q の二字は、恐らく西夏人姓であると思われるが、西夏文『雑字』「人名」の項では見つけられなかった。

36) ①𐰇𐰏 ②𐰇𐰏 ③𐰇𐰏

1phu 1cyu 1kha' 1myl' 1teu

④𐰇𐰏 ⑤𐰇𐰏 ⑥𐰇𐰏

1sho:n 2yu: 1ngu' 2leu 1la

- ①𐰇𐰏 1phu 1cyu は、西夏文『雑字』の第 11 葉右 6 行目に見られる。また 聂・史(1995)は、漢文版『雑字』に見られる西夏人姓「鋪朱」がこれにあたと述べている。また、漢人姓「朱」の表記にも用いられる。
- ②𐰇 1kha' については、同書「夏族姓」の項でこの字を使用した姓は見つけられなかった。
- ③𐰇𐰏 1myl' 1teu は、同書の第 12 葉右 8 行目に見られる。
- ⑤𐰇 1ngu' は、同書の第 12 葉右 8 行目 𐰇𐰏 1ngu' で使用されている。聂・史(1995)の『金碎』を書写した部分では別の異なる別の文字 𐰇 2khe: と表記されているが、本文中の説明から見て単純な書き誤りであると思われる。
- ⑥𐰇𐰏 2leu 1la は、同書の第 12 葉右 7 行目に見られる。

37) ①𐰇𐰏 ②𐰇𐰏 ③𐰇𐰏

2tsha 2zi 1khI 1ta 1phyon

③𐰇𐰏 ④𐰇𐰏 ⑤𐰇𐰏

2ldlr 1de: 2lu:' 1va 1nya:

- ①𐰇𐰏 2tsha 2zi は、西夏文『雑字』の第 11 葉左 7 行目に見られる。
- ②𐰇𐰏 1khI 1ta 1phyon は子犬・白いすなわち「白い子犬」と読める。聂・史(1995)はこの三文字で人名を表すのではないかと推測している。
- ③𐰇𐰏 2ldlr 1de: は、同書の第 13 葉右 3 行目に見られる。
- ④𐰇𐰏 2lu:' 1va 1nya: は、「白い子犬」との対応から考えて、人名である可能性が高い。聂・史(1995)は 𐰇 1va が豚を表す文字と同じ発音であることから、この三文字で「よき

6) 史(1988)は、この姓を第 169 姓であるとしているが、それは誤りで、史の言い方に従えば第 240 姓である。

黒き豚」という人名を表すのではないかと推測している。

38) ①𐵓𐵔 ②𐵕 ③𐵖𐵗

2so 1ldwo 1de ?a lho:n

①𐵓𐵔 2so 1ldwo は、西夏文『雑字』の第 13 葉右 3 行目に見られる。

②𐵕 1de については、同書「夏族姓」の項でこの字を使用した姓は見つけれなかった。

③𐵖 ?a は人に対する呼びかけに使われる接頭辞である。従って𐵖𐵗 ?a lho:n は人名であると考えられる。聂・史(1995)は、「阿香」の字をあて、幼名ではないかと推測している。

④𐵘𐵙 2ba 2bi は、同書の第 14 葉行 3 目に見られる。

⑤𐵚 1deu については、同書「夏族姓」の項でこの字を使用した姓は見つけれなかった。

⑥𐵛𐵜 2i: 1zi:q' は「子供」を表す西夏語である。𐵖𐵗 ?a lho:n が幼名であると仮定すると、ここに「子供」という語があるのもうなずける。

④𐵘𐵙 ⑤𐵚 ⑥𐵛𐵜

2ba 2bi 1deu 2i: 1zi:q'

1.2. 第 39 連—第 41 連

第 39 連から第 41 連までは、西夏及び周辺民族についての描写である。

39) ①𐵝𐵞 𐵟𐵠 𐵡

2mI: 2nya:2 1ki:r 2li:q 1je:

西夏人 勇敢 行く

西夏人は勇敢に行き、契丹人は歩くのが遅い。

𐵣𐵤 𐵥𐵦 𐵧

1chI: 1tan 1bi: ? 2lwiq

契丹 歩行 緩慢

①𐵝𐵞 2mI: 2nya:2 「ミニャク」は、𐵝 2mi: 「ミ」と共に西夏国の中心をなす部族の名称であり、西夏人の総称としても用いられる。

40) 𐵩𐵪 𐵫𐵬 𐵭

1phI 2ma:' 1tha 1sin 1bu:'

チベット 仏 僧 敬う

チベット人は仏僧を敬い、漢人は皆凡俗な文を愛する。

𐵯①𐵰 𐵱 𐵲 𐵳

1zar 2zi: 1mur 2'wI:r 1dzu

漢 皆 凡俗 文 愛する

①𐵰 2zi: 「皆」は西夏語で常用される副詞である。他の民族が全て二音節なのに対して、「漢人」だけが一音節であるため、語調を整えるために挿入されたのであろう。

41) 𐵴𐵵 𐵶𐵷 𐵸

1we 1wI 1lhyu 2chI:r 2de:

ウイグル 乳-酸い 飲む

ウイグル人は酸い乳を飲み、サンカは蕎麦餅を好む。

①𐵹𐵺 ②𐵻𐵼 𐵽

1shyan 1'o 1'on 1pyen 2lde:'

サンカ 蕎麦餅 好む

- ① 𐰽𐰺𐰍 1shyan l'o について、西田(1997)は漢字で「山訛」と書かれる部族、すなわち横山羌兵であると推測している⁷⁾。
- ② 𐰽𐰺𐰍 1'on lpyen 「蕎麦餅」の「餅」は、当然ながら穀物の粉を水などでこねたものを伸ばして焼いたものであり、糯米を搗いて作る日本の餅とは異なる。

ここでは、西夏人・契丹人・チベット人・漢人・ウイグル人・サンカ族が取り上げられているが、1115年に金王朝を成立させた女真人の名は挙がっていない。そのため、西田(1997)は、『金史』の成立を1115年以前であると推測し、「たぶん崇宗の時代(一〇八六一)の作ではないかと、私は見ている」と述べている⁸⁾。

7) 西田(1997) pp354-355。

8) 同上。

参考文献

- 荒川慎太郎(2002)『西夏文『金剛經』の研究』,京都大学博士論文
俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所 中國社會科學院民族研究所 上海古籍出版社 編
(1999)『俄藏黑水城文獻 10』,上海古籍出版社
- 小高裕次(2005)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 1」『東アジア言語研究』,6:1-8
小高裕次(2006)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 2」『東アジア言語研究』,7:16-23
- 李範文・中嶋幹起 編著(1997)『電腦処理 西夏文雜字研究』,不二出版
- 聶鴻音・史金波(1995)「西夏文本《碎金》研究」『宁夏大学学报』7(2):8-17
- 西田龍雄(1966)『西夏語の研究—西夏語の再構成と西夏語の解説』II,座右宝刊行会
- 西田龍雄(1997)『西夏王国の言語と文化』,岩波書店
- 史金波(1988)「西夏汉文本《杂字》初探」『中国民族史研究 2』167-185,中央民族学院出版社
- 史金波・黄振華・聶鴻音(1993)『類林研究』,寧夏人民出版社